

Von・noズ VONNOS

(上村有紀 + 久保佳絵)

難しいという先入観を捨てる。恥ずかしいという抵抗感を無くす。ほんの少し、いつもと意識をずらして、身体を動かしてみよう！



Photo:金子愛帆



Photo:bozzo



プロフィール

Von・noズ(読み方:ほんのーず)は、上村有紀と久保佳絵によるコンテンポラリーダンスカンパニー。ダンスは動作による芸術であるという考えのもと、創作活動を行う。抽象化したもの・具体的なものを混在させ、定義を限定しない作品に仕上げる。それぞれにクラシックバレエの経験があり、動きのベースとなっている。国内外で作品の上演を行うほか、近年はコラボレーションも多く行う。また、世代間交流を目的とした異世代へ向けたダンスワークショップや作品創作を行いながら、身体の可能性を探り続けている。

所属カンパニー Von・noズ
 ホームページ <http://www.vonnos522.com>
 連絡先(制作) Von・noズ
 連絡先(担当) 上村有紀
 E-mail von.no.zkh@gmail.com



Photo:齊藤優作

活動歴

〈2014年5月〉Von・noズ結成
 〈2018年8月〉単独公演「ベル」前菜(space EDGE/東京)
 〈2019年5月〉Seoul Dance Play 3rd International Festival 招聘「マグ」(Dance Theatre Nu/韓国)
 〈2019年11月〉吉祥寺ダンスリライト vol.1「ベレック-春の祭典 四重奏-」(吉祥寺シアター/東京)
 〈2019年12月〉ODISSHA BIENNALE 招聘「不在をうめる」(KALABOONI-Odisha Crafts Museum/インド)
 〈2021年6月〉DANCE TRUCK TOKYO「ベルTRUCK ver.」(東大島 旧中川・川の駅/東京)
 〈2021年8月〉ダンスがみたい! 23「新人シリーズ」受賞者の現在地2「Vocal cord」(d-倉庫/東京)
 〈2022年9月〉Dzone フェスティバル「ベレック-春の祭典 四重奏」(神楽坂セッションハウス/東京)
 〈2023年11月〉異世代文化交流プロジェクト「GEKI」(調布市グリーンホール/東京)

〈2024年4月〉単独公演「allegoria」-安部公房 短編小説「靴」の別な話し方-(すみだパークシアター倉/東京)

受賞歴

〈2017年8月〉「マグ」SAI International Dance Festival July Prize
 〈2018年4月〉「縁に立つ」NEXTREAM21 in Rikkokai DANCE CONTEST 2018 優秀賞
 〈2019年1月〉「不在をうめる」ダンスがみたい! 新人シリーズ 17 新人賞
 〈2020年2月〉「不在をうめる」横浜ダンスコレクション 2020 コンペティション I 奨励賞
 〈2022年3月〉「ROBIN」(MWnoズ) かながわ短編演劇アワード 2022 かながわ短編演劇賞 グランプリ
 〈2024年11月〉FIDA GOLD CUP 優勝 (出場団体:ケロッグ・ダンディーズの作品振付)

ワークショップ歴

〈2019年〉高崎・沼田バレエスタジオにてダンス経験のある中高生向けのWS主催:NPO法人 Ballet Noah
 〈2019年〉インドで開催された【Odisha Biennale 2019】にてダンス経験不問・10-30代を対象にしたWS主催:Mudra foundation
 〈2021年〉【ダンスリライト vol.2】にてダンス経験・年齢不問のWS主催:吉祥寺シアター
 〈2023年〉高崎・沼田バレエスタジオにてダンス経験・年齢不問のWS主催:NPO法人 Ballet Noah
 〈2024年〉【ダンスリライト vol.4】にて、35歳以下を対象にしたワークショップオーディションを実施し、2025年2月に一般公募出演者による作品「リアクション」を発表。
 主催:吉祥寺シアター

可能なワークショップ等のスタイル

アウトリーチ

~カラダを使ってダンスをする、ダンスを使ってカラダを動かす。~

①シニアクラブなどでのアウトリーチ

「軽やかな体とリズムダンス」
 体だけではなく脳や心をストレッチし、体を芯からほぐして全身の運動を目指す。汗を流し、爽快な時間を過ごしつつ、怪我をしにくい体をつくる。
 ◎一例:コミュニケーションを大切にしながら進める。体の部位に意識を向ける。音楽のリズムにあわせて動かす。

②企業などでのアウトリーチ

「体を動かして心をリフレッシュ」
 動作に対する認識を追加し、体の表面(外側)から内面(内側)をほぐすことで、考え方に“ゆとり・余白”をもたらすことを目指す。併せて、“コミュニケーション力”の育成も目的のひとつとする。
 ◎一例:日常の動作に目を向けて動かしかの意識を変え、正しい姿勢に体を調整する。体の可動域を広げることで、精神の可動域も広げる。避けてしま

いがちな動作を、無理のないやり方で取り入れる。

③学校などでのアウトリーチ

「そばにある動き・意識を捕まえる」
 いつも見ている景色を新たな側面から見ていた、いつの間にかダンスをしていた、というような、思いがけない入口からダンスを体験していくことを目指す。新しい体感と巡り会うための感覚や思考を刺激する。
 ◎一例:走る・打つ・泳ぐなど、スポーツのムーブメントを使って、ゲームを行う。懐中電灯の灯りを用いて、暗闇のなかで動く人の動きやポーズを照らす(ムーブメントの採掘)。何も無い空間に設定をつけたり、見えない設定を想像で空間に置き、そのなかで動き、過ごしてみる。※年齢や学校の専門性に応じて変えていきます。

◎アウトリーチ実施条件

▶参加適正人数:①②少人数ver.:15名程/大人数ver.:30名程、③:30名程度 ▶1日の実施可能回数・時間:2コマ※①③:1コマ90分、②:1コマ60分

公募ワークショップ

~動きのポキャブラリーを増やす・広げる。振付を踊る・つくる。~

①ダンス未経験者を対象(30歳まで/30歳以上)とするワークショップ
 ②様々な領域(ジャンル)でアート活動を行う方を対象とするワークショップ
 ③ダンス経験者を対象(30歳まで/30歳以上)とするワークショップ

Von・noズが日頃行っているウォーミングアップから始め、ムーブメントリサーチや作品のクリエーション、振付を踊るなど、ダンサーが行なっていることを実践する。個々に持ち帰った先で、共有した時間をダンスに限らず活かしてもらいたいことを目指す。
 ▶参加適正人数:少人数ver.:15名程/大人数ver.:30名程 ▶1日の実施可能回数・時間:2コマ※1コマ90~120分

◎アウトリーチ・ワークショップ実施条件(共通)

▶アシスタントの有無:無 ▶必要機材:PCやスマートフォンを接続できる音響プレイヤー

この事業で可能な市民参加作品のスタイル

①「ベル」Remix

ヒトが日々、色々なことを考え、感じ、行動しているのと同じように、名前の無い動きもさまざまな動機から生まれている、と考え、感覚を“振付”として表現・取り出すことに重視した作品。

法は自由。マインドマップを作り、オリジナリティ溢れる表現の発掘を目指す。

▶参加(出演)者の希望で小道具等が必要な場合、対応可能なものは準備をお願いします。

<実施条件>

▶上演時間:60分 ▶出演者数:3人(登録アーティスト+共演者1名) ▶市民参加の形態:市民参加公演(クリエーションワークショップ参加者との

協働作品) ▶クリエーションワークショップの参加(出演)人数・回数:10名程度・6~10回程度

▶同行スタッフ:舞台監督・音響・照明・制作のうちいずれか ▶現地スタッフ:舞台監督1名・音響1名・照明1名 ▶上演環境:(1)会場の広さ・形状:間口10m、奥行8m程度 ※広い方が望ましい(要相談)(2)リノリウム:①有。色の希望なし、②どちらでも可

この事業で可能な公演作品

①「Vocal cord」

見る/見られるという関係を模索した作品。人間の“行動”に注目し、具体的なカタチやポーズをトレースしていく。言葉をカットし、身体でくり返す。行動が語り始め、見えないはずの感情もカタチとなって浮き出てくる。

まに過ぎていく。見えていないこと、間にあるものは、一見ただの空気。空気の重さに注目し、漂う残像を動き描いた作品。

②「Character」

踊る側の体感と、作る側の視点を混ぜたソロ作品として発表した「まやかし」、「マグ」、「牙のありか」、「風景画」。それぞれ人間の特性に対する好奇心から創作し、独立した作品。1つがもう一方を引き起こす、あるいは共通点を持つ、という可能性を想像し、短編を連結して別の作品(もうひとつの話)として上演する。

<実施条件>

▶上映時間:①60分、②30分、③25~45分 ▶出演者数:①②2人(登録アーティスト)、③2~3人(登録アーティスト+共演者1名) ▶同行スタッフ:舞台監督・音響・照明・制作のうちいずれか ▶現地スタッフ:舞台監督1名・音響1名・照明1名 ▶上演環境:(1)会場の広さ・形状:間口8m、奥行8m程度(2)リノリウム:有。色の希望なし(3)舞台セット:①会場備品等を舞台上に配置、②椅子5脚(背もたれ有、パイプ椅子可)、③小道具(机・椅子・引き出し・スタンドライト)持込みあり

この事業で挑戦してみたいこと

●異なる価値観やバックグラウンドを持つ人と交流を図るのに、ダンスは大切な鍵になると感じています。ダンスは、リズムに合わせて踊るということに限りません。根本にあるものは、年齢や身体スキルを問わず、備わっているものだと思います。普段と違う角度で動きを捉えるきっかけを共有すること

で、知らない動きや発想と出会う瞬間を楽しんでほしいです。

●アートが多くの人に身近なものになるよう、未来に繋がる、豊かなアート体験をしてほしいです。ダンスの入り口を知った先で、芸術鑑賞の機会も増え

ると良いと思います。

●我々自身、その土地でしか出会えない技術や文化、人や時間の流れ方から受け取るものがどんな風に自分たちのダンスに影響するのか楽しみです。